

人交密度向上プロジェクトの推進と令和6年度の取組

目指す姿 いつでもどこでも岩手とつながる環境を整備し、関係人口の質的・量的な拡大を進め、ローカルイノベーションを創出する

現状と課題

①岩手県に関する様々な情報やサービスの配信など、いつでも岩手につながることができる環境の整備

【現状】

- ・SNS「いわてのわ」や関係人口ポータルサイト、YouTube等を活用し、岩手とつながる情報を発信
- ・コロナ禍を契機とした地方への人の流れ、テレワークやワーケーション、二地域居住といった新しい働き方の拡大
- ・NYタイムズ紙への掲載による本県への関心の高まり、人流の増加

【課題】

- ・市町村や民間も含めた様々な主体の取組の発信を更に強化
- ・U・Iターンや二地域居住の選択肢としての岩手を情報発信
- ・本県への関心の高まりを関係人口・定住人口へと促す取組の推進

②岩手へのつながりが地域活動への多様な参加や課題の解決などに結び付く「様々な主体の参画によるネットワークの形成」

【現状】

- ・震災からの復興支援を契機とした、多様な主体との交流の継続
- ・復興防災や世界遺産、三陸ジオパーク、地域公共交通など、豊富な地域資源が存在
- ・県・市町村における地域おこし協力隊員の増加（R4：230名）
- ・NYタイムズ紙への掲載による本県への関心の高まり、人流の増加（再掲）
- ・地域主体の戦略的な誘客に向けた、データ活用によるマーケティングプラットフォーム（DMP）の構築

【課題】

- ・多様な主体や地域資源の連携による一層のネットワークづくり、地域における受入に向けた機運の醸成
- ・学生や若者の本県への定着や、将来的なU・Iターン等に向けた若者同士のつながり、本県との関わり強化
- ・地域おこし協力隊の活動支援、任期終了後の定住に向けた取組強化
- ・新たなつながりづくりのきっかけとなる観光客の獲得に向け、インバウンドの拡大やデータマーケティングの推進

③情報通信技術（ICT）を活用したライフスタイルに合わせた働き方、地域貢献活動など多様な交流の場の創出

【現状】

- ・地方への人の流れ、農業に関わりたい方の増加に対する支援の不足
- ・外部人材が地域課題解決等に様々な形で関わる機会を創出する「遠恋複業課」の実施（R4までのマッチング件数：93件）

【課題】

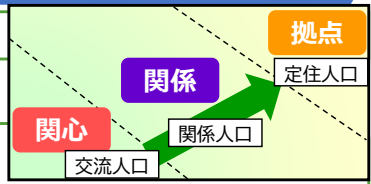
- ・就農・農村暮らしに関する情報発信や農村体験機会の更なる提供
- ・遠恋複業課における外部人材と地域のマッチングの質・量の向上

今後の展開

- ① (1)ターゲットに対応した、より効果的な手法・内容による統一的・一体的な情報発信の充実
(2)UターンやIターンの促進に向けた取組の強化
- ② (1)関係性の一層の深化に向け、市町村や民間との連携による受入体制の充実や機運の醸成の促進
(2)岩手と新たにつながりを持つ方々の増加に向けた観光客のニーズを踏まえた誘客促進
- ③ (1)岩手らしさを生かしながら、外部人材が参画する多様な交流機会を提供
(2)外部人材と地域課題解決を希望する地域団体・企業の掘り起こし・マッチングの促進

令和6年度の具体的な取組

- 「関心」から「関係・定住」への移行を促す取組の強化（情報発信力の強化、地域の受入体制の充実）
- ① 環境の整備
 - 「いわてのわ」や関係人口ポータルサイト、YouTube等による情報発信
 - 地域おこし協力隊制度を活用した広域的な地域振興等に取り組む外部人材の活用（いわて地域おこし協力隊活動推進事業費負担金 16百万円）
 - 県外在住の若者等へのお試し就業・お試し居住機会の提供（短期滞在型人材確保推進事業費 11百万円）
 - 移住希望者の拡大と、移住前のコミュニティ形成を目的とした首都圏での連続講座の開催（いわて移住・定住促進事業費 35百万円）



- ② ネットワークの形成
 - 三陸の地域資源と防災学習を活用して企業の研修や大学現地ゼミ等を誘致（新しい三陸振興推進費 3百万円）
 - JRローカル線の魅力向上や県内外からの誘客促進に向け、沿線自治体が行うモデルツアー等を支援（JRローカル線活性化対策事業費 34百万円）
 - 県内の地域おこし協力隊員間の交流の場等の設定（地域おこし協力隊活動支援事業費 3百万円）
 - いわて若者カフェやフォーラム等による若者の交流の促進（いわて若者活躍支援強化事業費 25百万円）
 - 知事のトップセールスによる外国人観光客向けの情報発信や県産品プロモーション等（世界が気づいた岩手の魅力発信事業費 17百万円、海外輸出力強化事業費 38百万円、いわての食財海外販路開拓・魅力発信事業費 15百万円）
 - インバウンド向けの県内周遊促進に向けた取組の支援（インバウンドぐるっと県内周遊促進事業費 30百万円）
 - 東・東南アジア市場に東北一体で認知度向上プロモーションを実施（世界が訪れたくなる東北・岩手広域周遊促進プロモーション事業費 15百万円）
 - いわて観光DMPを活用したデジタルマーケティングの推進と観光地域づくりの支援（いわての新しい観光推進体制整備事業費 23百万円）

- ③ 多様な交流の場の創出
 - 若者を対象とした農村再発見バスツアーの実施、就農・農村暮らしに関する情報発信（農業農村関係人口拡大定着支援事業費 10百万円）
 - 外部人材が地域課題解決等に様々な形で関わる機会を創出する「遠恋複業課」の一層の推進（関係人口創出・拡大事業費 11百万円）

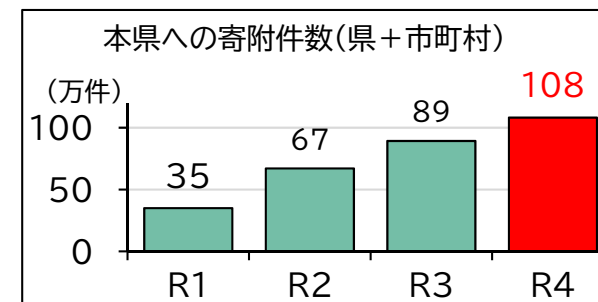
1 県内各地で関係人口に関する取組が進む

- 関係人口の創出・拡大に向けた取組が県内各地で展開
 - ・宮手圏つながりカレッジ(県南広域振興局)・盛岡という星で(盛岡市)
 - ・ラーニングワーケーション(陸前高田市、住田町、釜石市) など
- 防災学習等に係る大学等との連携(沿岸地域)
- ワーケーション対応宿泊施設やコワーキングスペースの整備が進む
 - ・いわてユースセンター ミライト(岩手町)・モビリア(陸前高田市)
 - ・国民宿舎くろさき荘(普代村)・イコウエルすみた(住田町) など
- NYタイムズ掲載に伴う情報発信
 - ・Facebook「いわてのわ」など、全庁統一的な取組による情報発信
 - ・ふるさと納税寄附者への御礼状へ掲載 1,700人超(10月まで・年間3,000人超へ送付)



2 岩手に関わる人々が増加

- 県内の「地域おこし協力隊員」数 R元:178人→R4:230人と増加
- 「遠恋複業課」のマッチング数 R元～R4の累計で93件
- ふるさと納税の県及び市町村の寄附件数・寄附額 大幅に増加
R元:35万件、65億円→R4:108万件、177億円
- 「THEいわてDAY」「岩手わかすフェス」など、首都圏でも岩手と関わるイベントを開催



3 岩手に拠点を持つ人々の増加

- R元～R4で合計5,739名が岩手に移住
- R4.3.31までに任期終了した地域おこし協力隊員248名のうち170人が県内に定住(定住率68.5%)